

ココがトットリズム♪ ～トットリズム県民運動の事例～

事例① 山形財産区議会

[地域づくり活動]

智頭町の北東に位置する山形地区は、古くから智頭杉をはじめとする林業に関わってきたエリアです。特に芦津から沖ノ山にかけては森林鉄道網が整備され、林業の発展に貢献してきました。

山形財産区議会は、財産区有林の維持管理や土地の管理、杉やヒノキの枝打ちや間伐および林道の整備などをしていく一方で、地区で行われるイベントや各団体活動への協力を行っています。



平成25年より始まった「沖ノ山森林鉄道および智頭林業資材の保存活用事業」では旧山形小学校の沖ノ山森林鉄道車両の屋根づけ、ミニ架線と集材機の設置、これまで長年続けてきた林業体験学習の充実など段階的にすすめてきました。

現在では智頭小学校の児童を対象に、智頭林業や地域の歴史を説明し、現場での枝打ち体験などを通じて次世代への継承に努めています。

ココがトットリズム♪

この事業の地域の子どもたちに地域で活躍する大人の姿を示している点や地元密着度が高く、今後の日本の林業のモデルとなる点などが評価され、平成27年度「鳥取力創造運動活動表彰」（現「トットリズム活動表彰」）最優秀賞を受賞しました。



子どもも大人も輝く、トットリズム♪

ココがトットリズム♪ ～トットリズム県民運動の事例～

事例② 鳴り石の浜プロジェクト

[地域づくり活動]

ココがトットリズム♪

「鳴り石の浜プロジェクト」(リーダー：馬野さん)の立ち上げは平成23年6月のこと。この団体は、国道9号線の交通量減少に危機感を感じ、昔からそこにありながらほとんど知られていなかった風景に焦点を当て、独自のアイデアで町内外にPRしています。

活動の基本は自然海岸の維持管理活動です。来られた人ががっかりされないように定期的に漂着ゴミを回収しています。



そして、海岸の石が波の動きに合わせて「カラコロ」と心地よく鳴る”ことから、さまざまなことが「良くなる。「縁起の良いパワースポット」としてダジャレで売り出しました。

絵馬のように石に願い事を書いて海に戻す石絵馬祈願を展開したり、鳴り石の浜の優しい波音を収録したCDやパワーストーン「良くなる石」などグッズも開発して販売し、話題を集めています。

夕方から夜にかけて鳴り石の浜を楽しむ「鳴り石祭り」や被災地陸前高田市から送られた向日葵を植える活動、地元主婦が金・土曜限定ランチを提供する「鳴り石カフェ」など、鳴り石の浜を核とした様々な連携が広がっています。

平成24年度「鳥取力創造運動活動表彰」(現「トットリズム活動表彰」)最優秀賞、平成27年度「手づくり郷土賞」(国土交通大臣)、平成28年度「ふるさとづくり大賞」(総務大臣)などの受賞につながっています。



豊かな自然を独自のアイデアで活かす、トットリズム♪

ココがトットリズム♪ ～トットリズム県民運動の事例～

事例③ 若桜鉄道「隼駅を守る会」

[地域づくり活動]

発端はバイク専門誌が「隼のオーナーは隼駅に集合して記念写真を撮ろう!」と呼びかけたことでした。京阪神から7台のバイクが来町し、「来年もこの日に集まろう」と約束したことを契機に、隼駅を全国に発信するチャンスだと、地元有志が平成21年3月に「隼駅を守る会」を結成し、8月には『隼駅まつり』を開催しました。



平成23年2月には、若桜鉄道と「隼駅を守る会」が主催し、「カラオケ列車」「ビール列車」を運行。このほかにも、隼駅と姉妹駅提携した韓国の池灘(チタン)駅との交流や「S L列車」(郡家ー若桜間)の運行などを展開し、幅広い活動が「地域再生大賞」(共同通信社)などの受賞につながっています。

「隼駅を守る会」の西村昭二会長(右写真)。初めての『隼駅まつり』には、北海道から沖縄県まで全国から100台が集結。平成28年には1600台を超えるバイクが全国から参加し、ライダーたちにとって同駅への訪問が「聖地巡礼」として定着しています。

ココがトットリズム♪

「これからも地元が一丸となって、地道だがしっかりと根を張った地元活性化策を講じていきたい。」



人財を活かす、トットリズム♪

ココがトットリズム♪ ～トットリズム県民運動の事例～

事例④ 日野軍★みらい創生デザイン会議

[地域づくり活動]

平成 26 年、日野郡で秋に開催される多彩なイベントを一つに取りまとめ、『日野軍★秋の陣』と銘打って、パンフレットを作成するなど、日野郡内外に広く情報発信する取り組みが行われました。

これがきっかけとなって生まれたのが、地域情報の収集・集約・発信を基本としたネットワーク「日野軍★みらい創生デザイン会議(以下「デザイン会議」)」です。



デザイン会議では、「奥日野五山」や「古民家ネットワーク」など町境を越えたコンテンツづくり、無人駅を「地域の玄関」として蘇らせる取り組み、2020年には創立100周年を迎える「日野高校」をテーマに、群内外から卒業生を結集する取り組みなどを展開。

平成 28 年度には、たたら製鉄をテーマにした自然体験と文化学習プログラム構築の取り組みが「日本財団鳥取助成プログラム」に採択されています。

現在は「秋の陣」だけでなく「春の陣」「夏の陣」も実施され、郡内外の民間団体同士が手を結び、年間を通じてさまざまなコラボ企画が生まれています。

ココがトットリズム♪

デザイン会議のメンバーである奥日野ガイド倶楽部の佐々木さんは「デザイン会議を大きな土俵として団体間にネットワークが生まれ、協力して取り組んでいく態勢ができた。」と連携面の効果を強く感じています。



町境を越えたネットワークも、トットリズム♪

ココがトットリズム♪ ～トットリズム県民運動の事例～

事例⑤ NPO 法人 智頭町森のようちえん まるたんぼう

[協働]

まるたんぼうは平成21年4月、中国地方初の「森のようちえん」として開園しました。代表の西村さん(右写真)。生まれも育ちも東京で、移住した智頭町で満足のいく子育てを実感しました。

ココがトットリズム♪

「想像以上に良かった。これを1人で満喫するのはもったいないと思うようになり、ぜひ智頭に来て子育てしてほしいという思いが強くなった」と振り返ってくれました。



まるたんぼうでは、`見守る保育、を柱に「体を鍛える」「心を育む」ことを保育方針として掲げています。

「森のようちえん」は45年ほど前からデンマークで始まり世界中で浸透。毎日森に通うことで、体力の増強や創造力や観察力、危機回避能力やコミュニケーション能力など、さまざまな発達効果が期待され、日本でも100以上の団体が運営しています。

まるたんぼうでは、平成25年度に鳥取県協働提案・連携推進事業に採択され、県子育て応援課との協働で森のようちえんの認証制度である「とっとり森・里山等自然保育認証制度」を平成27年3月に創設しました。

認証された園に対して助成を行う制度としては全国初で、これまでに7つの園が認証されています。



官民協働による地域の魅力づくりも、トットリズム♪

事例⑥ 琴浦まちづくりネットワーク

[地域づくり活動]

琴浦町には観光・グルメ・歴史文化など、地域資源を活用したまちづくりの団体が数多くあります。

琴浦町誕生 10 周年を機に、団体同士が連携・協力し新たな活動展開に取り組もうと「琴浦まちづくりネットワーク」を結成しました。



主な活動は、月 1 回会員が集まって琴浦町の未来、まちづくり活動の未来について話し合う研究会の開催です。

今までは各団体が単独の観点で見えていたものを、多くの人の目で見直すことで新たな評価や提案が生まれており、個別の団体活動の活性化はもちろん、琴浦町のまちづくりにも新たな風が巻き起こっています。

平成 27 年 12 月には、琴浦町長に提案書を提出するという政策提言活動も行いました。

ココがトットリズム♪

「今まで顔を合わせることがなかった団体同士に交流が生まれ、お互いの活動に参加し合ったり、タッグを組んでの事業展開などが自然に起こり始めています。」

活動を継続・定着させ、琴浦町をどんどん盛り立てていきたいですね。」と会長の四門さんは意気込んでいます。



地域づくりのネットワークも、トットリズム♪

事例⑦ トットリハイスクールプロジェクト&高校生が プロデュース。まちなかチャレンジデー [ボランティア活動]

「トットリハイスクールプロジェクト」(以下、トリプロ)は、「学校の枠を越えて何か面白いことをやってみよう!」という思いに共感した高校生が集い、様々な取り組みに挑戦するグループです。

学生の目線から見た身近な地域、興味関心のある出来事などを発信し、地域とそこに暮らす高校生に活気を生んでいこうと、平成26年4月から活動を始め、平成27年2月にはフリーペーパーを創刊しました。



トリプロのメンバーにさらに高校生有志が加わり、大学生・高校の先生方も協力して行ったのが「高校生がプロデュース。まちなかチャレンジデー」のイベントです。

平成27年12月、鳥取市のまちなかをメイン会場に、ディベート、大人と高校生のプチ座談会、音楽ライブ等々、盛りだくさんの内容で開催しました。

ココがトットリズム♪

「これまでの取り組みで自分たちに自信が持てましたし、「高校生だってここまでできるんだ」ということを大人の方に分かっていただけたのではないかと思います。」と、トリプロ代表の加藤さんは、自信を持って語ります。

